

(別紙5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成20年9月26日
調査実施の時間	開始 10 時 00分 ~ 終了 15 時 30 分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム のつはる (大分県)
-------------------	-----------------------

評価調査員の氏名	氏名 宇戸田 実男
	氏名 桑島 英治
事業所側対応者	職名 管理者
	氏名 加藤 松代 ヒアリングを行った職員数 (6) 人

<p>※記入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。 ●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。 <p>※項目番号について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外部評価項目は30項目です。 ○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。 ○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。 <p>※用語について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある) ●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。 ●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。 ●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。 <p>関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。</p>

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月11日

【評価実施概要】

事業所番号	4470103617		
法人名	有限会社 藤の会		
事業所名	グループホームのつはる		
所在地	〒870-1203 大分市大字野津原1504番地5 (電話) 097-588-1323		
評価機関名	特定非営利活動法人 大分福祉サービス評価機構		
所在地	〒870-0928 大分市大字下郡1015番地5		
訪問調査日	平成20年9月26日	評価確定日	平成20年10月15日

【情報提供票より】(平成20年9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 4月 20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算	9.075人

(2) 建物概要

建物構造	平家	造り
	1階建ての	～ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
または1日当たり		900 円		

(4) 利用者の概要(平成20年9月10日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	2名
要介護1	0名	要介護2		2名	
要介護3	3名	要介護4		3名	
要介護5	1名	要支援2		0名	
年齢	平均 81歳	最低	61歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野津原診療所・三愛病院・博愛病院・アルプス歯科・永富整形
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当施設の理念として「地域の中で人間らしく普通に暮らしていただけるように支援いたします。」が掲げられており、管理者 以下職員全体が、その理念に基づいて、サービスに当たっている。食事は、朝5～6品目、昼・夜は8品目と多彩なメニューで、利用者の協力をいただきながら、職員が調理を行っている。調理品は写真に残し、事業者による栄養チェックや、家族に見ていただくなど活用している。利用者家族のアンケートでも、当事業所・職員の対応については、高い評価となっている。口中は鍵を掛けておらず、1日中、いつでも入浴できるという利用者本位の生活が保障されている。環境も自然に囲まれており、居室に而して菜園もあり、家庭的な雰囲気での生活を利用者は、十分享受している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 「居室に自分の使い慣れた家具・調度品の持ち込みを、家族の協力で行うこと」については、改善されている。「情報の伝達は、口頭でのみでなく、サインするなど、確実な情報の共有化を行うこと」については、研修レポートなどで、職員の関覧の確認が出来ないことからみても、今後の改善課題と思う。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ①研修は施設内・外でよく実施されている。研修レポートに閲覧印の欄を作り、捺印・サインをすること。②近隣のグループホームとの交流を月1回実施しており、成果が期待出来るので、今後とも継続していただきたい。③介護計画については、職員や家族にも判り易く様式が工夫されている。④マニュアルは、よく整備されているが、十分活用するに至っていない。活用を期待します。⑤外出行事は、よく行われている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、地域代表として区長が参加している。主な議題としては、近隣のグループホームとの利用者同士の交流を行ったかどうかという提案があり、グループホーム「館」との交流を、毎月交互訪問という形で、実施している。その他、地域の行事情報をいただき、小学校運動会、神社のお祭り等に利用者が参加している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者家族等アンケートから見て、大部分の家族は、事業所の運営に満足しており、感謝の気持ちを表しています。家族の意見としては、月15,000円の水道光熱費等入所費用がもう少し安くないだろうか、ということです。当施設では、職員の定着率が高く、正職員での運営であるため、収支差益は殆んど出ない状況であることを説明し、入所費用の低減は困難であることを、家族は了承している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営協議会に、区長・民生委員・市役所職員などに出席して貰っている。その会議での要望や情報により、近隣のグループホームとの交流、また小学校運動会・神社のお祭り等に利用者が参加している。外出行事では、地域のレストランに毎月利用者と外食に出かけている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より「地域の中で人間として普通に暮らしていただける様支援いたします」を理念として、運営されている。そして、家庭的な環境の下で、日常生活が送れるよう配慮している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時、又はミーティングの際に話し合い地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、理解して、日常のケアに活かせるよう取り組んでいる。	○	ミーティングや研修の際に、出来るだけ「マニュアル」を活用すること。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議に、地元区長に必ず出席してもらい、施設の取り組みについて説明をしている。小学校の運動会や、子ども神楽開催の際などに、毎年利用者が招待を受け、参加している。施設として、自治会に参加して、地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果で指摘を受けた「自己評価」については、職員全員で取り組み、毎月のミーティングの際に、外部研修参加の報告を行って全員で共有している。必要があれば、業務についての改善に向けての検討を行っている。	○	

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、区長・民生委員・市役所職員・家族代表が参加している。当施設のサービス提供の取り組み、理念や課題など説明し、話し合いを行っている。また、地域の情報をいただき、地域行事（運動会・神社の祭り等）に積極的に利用者を、参加させてもらっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	困難事例などについては、市の長寿福祉課に伺い、相談し、その都度アドバイスをいただき、入居者のケアに活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月広報紙を発行し、活動内容が分かるよう、行事の写真等を掲載したものを家族へ送付している。本人の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしており、施設の対応に家族は満足している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時の話し合いで、要望や意見を家族から出してもらい、買い物に連れて行って欲しい等の要望があればすぐに実行している。また、家族の会への参加を積極的に呼びかけ、家族代表者は運営推進会議に参加し、地域住民等へも意見を伝える機会が設けられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業者は、職員の異動や離職が最小限に抑える努力を行っており、離職する職員も少なく落ち着いた雰囲気、業務に従事している。系列の施設との間の人事異動を、止む無く実施した際は、利用者・家族には、説明を行い、ダメージを少なくしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる研修には、できるだけ多くの職員が参加できるよう、勤務シフトを計画し、工夫している。参加した職員は、直近のミーティング時に研修の報告をし、また研修レポートを作成し全職員が閲覧できるようにしている。新人の研修は、1か月間計画に基づき、施設長が実施しており、評価も適切に行われている。	○	研修レポートは、作成され提出されているが、職員の閲覧が確認できないので、閲覧した場合、回覧印のスペースをつくり、捺印するようにして下さい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区にあるグループホーム「館」と、月1回交互に、利用者が訪問し合っている。食事や、レクリエーション等を通して交流している。また市・長寿福祉課の呼び掛けで、老人福祉施設との情報交換会に、介護支援専門員が出席している。グループホームの連絡会にも積極的に参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望される際は、家族や本人がホームの見学をして、施設の雰囲気を見ていただく。資料・写真等で、説明を行っている。こうして、馴染みの関係を築きながら入居へと結びつけている。入居後も不安な場合は、家族に来てもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者は家族の一員である」という認識を、職員が共有して、一緒に生活をしているという姿勢で、サービスに当たっている。利用者が自由に気持ちを表せる雰囲気をつくり、職員も「喜怒哀楽」を共感している。利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、いろいろ教えてもらう姿勢である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、利用者1人ひとりが、発する言葉や表情から思いの把握に努めている。介護支援専門員は、本人・家族等からの情報を基に、介護計画の作成を行い、日頃のケアに生かせるよう、検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成では、アセスメントを含め担当職員・施設長、必要に応じ本人・家族の参加を得て、カンファレンスを行っている。介護計画に就いては、家族等にも理解しやすいように、独自様式を工夫している。こうして、本人・家族の要望も取り入れ、個別性を重視した介護計画の作成に取り組んでいる。	○	介護計画については、当施設独自の様式を採用しており、介護に当たる職員はもとより、利用者本人・家族にも分かり易い計画書となっている。評価したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には、月1回モニタリングを行い、必要があれば介護計画の見直しを実施している。しかし、本人の状態の変化や家族の要望のあった時には随時介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけの医療機関への付き添いや、入所の宿泊体験など柔軟な対応をしている。また、外出行事では、年1回「海たまご」見物、月1回レストランでの外食を実施し、喜ばれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前からのかかりつけ医の受診を、本人や家族が希望した場合は、続けて受診を支援している。協力医（野津原診療所）との情報提供など連携も密にとり、適切な医療を受けるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>訪問看護ステーションとの連携について、検討していただければと思います。</p>
19	47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に家族や本人の思いを聞き取り、記録をしている。現時点では看取りは行っていないが、主治医と話し合い、本人や家族の希望に沿えるよう取り組んでおり、入院となるギリギリまで、施設で介護を行っている。急変時には家族間の意見を統一するようにしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ミーティング等で、プライバシー保護について検討は行っているが、マニュアルが活用されていない。プライバシーの確保は、重要であるので、マニュアルに基づいた研修等が必要である。</p>	○	<p>重要事項説明書に、個人情報について、利用者・家族等の要求があれば、情報を開示する旨の記載がない。プライバシーに関するマニュアルの活用をお願いしたい。</p>
21	52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>全体の基本的な1日の流れはあるが、利用者のその日の状態や気持ちにより、自分らしいペースを尊重している。買い物や散歩等、希望された場合も柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の希望や好みを尊重し、朝は5～6品、昼と夜は8品とバランスのとれたメニュー作りに取り組んでいる。利用者には、得意な方は料理のしたごしらえや、お米研ぎ、食事の後片付けを一緒に行っている。調理品については、写真に都度残しており、事業者が栄養状態などチェックしている。家族への説明にも利用している。	○	調理品を写真で残して、管理者サイドでの栄養状態の事後確認に供している他、家族等に面会時見えていただくなど、活用されており、経費面で負担にならないように、今後も効率的に継続してください。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴や夜間入浴も可能で、自分でできる人は、自由に入浴を楽しんで貰っている。介助の必要な方は、状況に応じ対応している。失禁や体調不良などの場合は、シャワー浴や清拭で清潔の維持をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴から利用者1人ひとりが力を発揮できるよう支援をしている。野菜づくり・献立・風呂洗い・掃除・洗濯たたみ・調理・玄関掃除・草取りなど楽しみながら行っている。ホーム内の季節の行事、誕生会など積極的に催している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や気分に応じて、散歩に出掛けたり、気候の良い日は、全員で庭に出てお茶を飲みながら季節の草花を観て楽しんでいる。近くのグループホームとの月1回の相互交流、行事として毎月1回の外食などを実施し、利用者に喜ばれている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関の鍵は日中はかけておらず、出入りは自由にしている。外出・帰宅願望者に対しては、職員の見守りの方法を徹底し、安全面に配慮している。最近は、無断外出・徘徊などの事例はない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。また、避難経路等については、消防署の方に現場を見ていただき、直接指導をしてもらっている。地域の協力体制については、運営推進会議で区長に協力をお願いしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は栄養バランスに配慮して、野菜を中心とした多数の食品を取り入れて食事を作っている。水分摂取の量や重要性を認識し把握している。事業者としては、豊かな食事の提供を、当施設の最大のセールスポイントとしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に自然な光が差し込み、明るく清潔感のある空間作りに取り組んでいる。調理室が居間と隣接し煮物の匂いや、まな板の音等調理している様子が見られるよう、家庭的な雰囲気大切にしている。大きな音は避け穏やかな音楽を流している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりが使いやすいよう配慮して、その人らしい居室づくりをしている。目の不自由な方も自由に過ごせるよう配慮して、使いやすいよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（別紙3）を添付すること。

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より「地域の中で人間として普通に暮らしていただく」ことを理念として、地域と密着した支援をポイントに置いている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時、又はミーティングの際に話し合い地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、理解してもらうようにし、日常生活の中でケアに活かせるよう取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議の場で施設の取り組みについて説明をし、家族へは面会時又は施設内新聞で、理念をもとにしたケアについて随時報告している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物等に出かけ、近隣の人達と挨拶を交わしたり、話をしている。又、近隣の人達から野菜の差し入れがあった際や、外でお見かけした時に声を掛けホームへお立ち寄りいただき、お茶を出したりして、入居者と触れ合っていたりしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の祭りやコンサートなどの行事に参加している。中学生の体験学習の受け入れや子供神輿がホームに来て、子供と触れ合うことを大切にしている。また、近隣の人達から野菜の差し入れがあったりと、援助をいただいている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で行われる研修には、できるだけ多くの職員が参加できるよう、研修の日時に合わせて勤務シフトを計画したり工夫している。参加した職員は、直近のミーティング時に研修の報告をし、また研修レポートを作成し全職員が閲覧できるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区にある他事業者のグループホームと、定期的にお互いの施設を利用者と一緒に訪問しあっている。食事をしたり、レクリエーション等を通して交流している。また市役所長寿福祉課の呼び掛けの情報交換会にケアマネージャーが出席し、相互の取り組みについて報告している。グループホームの連絡会にも積極的に参加している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常や面談時に、職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。また定期的に親睦の場をつくり気分転換を図れる機会をつくっている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎日、現場からの報告を必ず受けており、職員個々の業務を把握している。また現場にも頻繁に足を運び、利用者及び職員と対話の機会を持っている。職員の資格取得に向けた支援にも力を入れている。また、職員各々の得意分野を活かし、それを仕事に繋げて、モチベーションを維持している。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	落ち着いた話が出来る機会を設け、必ず本人と向き合っ心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用を開始されるまで何度かホームへ来所いただき話し合いを重ねている。来所が不可能なご家族には電話で対応をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>		
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個人の介護日誌を記録し、特記については引継ぎ欄に記録し、必ず口頭で伝達することで、情報の共有を図っている。状況によっては、随時ケアカンファを開催し、必要があれば介護計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけの医療機関への付き添いや、入所前の宿泊体験など柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、警察との連絡体制を確保したり、民生委員と話し合いの場を設けたり、外出時の支援等、ボランティアの協力もある。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	以前、必要があった利用者について医療デイケアを利用したことがある。対応に苦慮する場合は地域包括支援センターの相談している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	対応に苦慮するケースについては、地域包括支援センターに相談している。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診を、本人や家族が希望した場合は続けて受診を支援している。グループホームの協力医との情報提供など連携も密にとり適切な医療を受けるよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング等で、プライバシー保護についての職員の意識向上を図り、面会の際など家族以外の方に対して、職員が本人のプライバシーに関することを話さないよう徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常のコミュニケーションから、利用者個々の希望、関心、嗜好を把握できるよう努め、レクリエーション、ホーム行事を企画したり、外食の際には食べ物を利用者が選ぶようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体の基本的な1日の流れはあるが、その日の状態や気持ちにより自分らしいペースを尊重している。買い物や散歩等、希望された場合も柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の馴染みの理美容院がある方は、自由に利用できるよう支援し、それ以外の方にも、月1回、契約している美容師さんに、ホームへ出張してもらい、カットや毛染めの希望に対応してもらっている。お化粧を好まれる方には毎日楽しんでもらえるよう、支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、利用者の希望や好みを尊重し、朝は5～6品、昼と夜は8品とバランスのとれたメニュー作りに取り組んでいる。利用者には、菜園から野菜を収穫してもらったり得意な方は料理のしたごしらえや、お米研ぎ、食事の後片付けを一緒にしている。行事や外食の際は、職員も一緒に食事をしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	買い物の際に好きな物を購入してもらっている。お酒は行事の際などにお出ししている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、必要な場合に職員が要件を受け取次ぎをしている。手紙を書くことができる方には書いてもらっている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会については時間を決めずいつでも気軽に来ていただけるよう、家族などに話している。面会時にはお茶を出したり等、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り時等で、その日のケアを振り返り、自覚しない身体拘束がおこなわれていないか等を点検している。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関の鍵は日中はかけておらず、出入りは自由に行っている。外出・帰宅願望者に対しては、職員の見守りの方法を徹底し、安全面に配慮している。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で、記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握している。夜間は居室が見渡せる場所に位置し、1時間毎に利用者の様子を確認し、24時間利用者の安全に配慮している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に照らしながら、厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、利用者が使うときに注意が必要なもの等に分けて管理している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハットや、万が一の事故が発生した場合には、速やかに記録・報告を行っている。ミーティングの際に、事故原因の今後の予防策について検討し、家族への説明と報告を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年数回、職員一斉に教育を行っている。必要があればマニュアルを使用し指導している。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練を行っている。また、避難経路等については、消防署の方に現場を見ていただき、直接指導をしてもらっている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者、一人ひとりに予測されたリスクを把握し家族等と話し合い、事業所の取り組みを丁寧に説明し、理解を得られるように努めている。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は普段の状況を把握し、常に顔色・唇色や表情・動作の変化に注意し、早期発見に取り組んでいる。変化を感じたら、バイタルチェックを行い、状態を記録し、状況により医療受診につなげている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報提供者をファイルし、職員が内容を把握できるようにしている。薬袋に氏名を記載し、服薬時には職員が服薬管理を行い口に入れている。状態変化が見られるときは、詳細に記録し、受診時に担当医に伝えている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	麦茶や牛乳等で十分水分補給を行い、野菜中心のメニューで食物繊維を豊富に摂取できるよう工夫している。また腹部マッサージをすることで自然排便を促すケアに心掛けている。尚且つ排便困難な利用者に対しては医療との連携を図っている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの力に応じた歯磨きの介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周リや空間の活用</p> <p>建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		